

「日韓議連とは何なのですか？」

平成31年1月2日

● Q 太郎さんからの質問

いつも日本のためにありがとうございます。正直言って、国会議員の方にわざわざ「日本のため」と付けるのもどうかと思いますが、そう言える相手が極めて少ないのが情けないです。質問ですが、上記に関連します。日韓議連とは何なのですか？構成メンバーさえ明らかにせず、それも同じ議員からの質問さえ黙殺する。そして主な活動である相手国議員との会合で日本としての為すべき主張一つ行わない。そしてただ相手の言い分を聞いてくるだけ。歴史認識問題を中心に、今日の姿にまで韓国をエスカレートさせたのはこのような事なかれ主義であり、決して相手の為にはならずむしろ人を小馬鹿にした態度と見受けられます。西田先生の同議連に対するお考えを伺いたいです。よろしく願いいたします。

● 西田昌司の答え

私は京都府議会議員時代に日韓親善京都府議会議員連盟の会長を務めていたことがありますが、私は永住韓国人の地方参政権に断固反対の立場でしたので途中で退会しました。

民団は永住韓国人の地方参政権獲得運動を最重点運動として展開していきまし、日韓親善京都府議会議員連盟にもさかんに陳情していきまし。しかし、永住韓国人に地方参政権を与えるのは主権侵害そのものですし、地方参政権を得たいのであれば日本に帰化すれば良いのです。韓国の国籍のまま日本において地方参政権を得るといのはあまりに虫がいい話ですし、私がどのように説明しても彼らは引き下がらなかつたので私は退会したのです。

あの当時、私と同じ考えの自民党の同僚も沢山いましたが、中には地方参政権くらい与えても良いのでは、と考える人もいました。（国会議員で構成される）日韓議員連盟に所属する自民党の議員の中に永住韓国人への地方参政権付与の旗振りをしている人はいないとは思いますが、2009年に自民党から政権を奪った民主党は『民主政策集 INDEX2009』の「永住外国人の地方選挙権」という項目において

民主党は結党時の「基本政策」に「定住外国人の地方参政権などを早期に実現する」と掲げており、この方針は今後とも引き続き維持していきます。

と記載しており、永住外国人への地方参政権付与を公約として掲げていたようなとんでもない政党でした。

民主党の野田内閣の時代に私は国会において野田総理に対し、民主党の永住外国人への地方参政権付与についての考えを質しました。民主党が自民党に大勝した2009年の総選挙後、野田総理は民団主催の「十月マダン」というイベントに出席し、「御紹介いただきました民主党衆議院議員野田佳彦でございます、昨年につきましてお招きいただきありがとうございます、もう一つ御礼申し上げなければならないのは、民団の皆さん方の力強い御推挙をいただき、力強い御支援をいただきました、心から御礼を申し上げます」と挨拶しています。また、野田総理は（国会議員）浪人中に民団の役員から献金を受け取っていましたし、永住外国人への地方参政権付与に前向きな民主党を民団が応援して、野田総理がその御礼を言っているのですから何をか言わんやです。私の追求に対して、永住外国人への地方参政権付与に「私は慎重な立場であります」と野田総理は取り繕っていましたが、あの時代、民主党の議員で民団と懇意な間柄の人は多かったのだらうと思います。しかし、そんな民団も最近はかつてのようには地方参政権獲得の運動を活発に行っていないようであります。

かつて、韓流ブームと呼ばれる韓国大衆文化の流行が日本で起こりましたが、（野田内閣時代に）李明博大統領が竹島に上陸したり、「日王（天皇）が

韓国に来たければ独立運動家に謝罪せよ」といった類の発言をしたために日本人の韓国に対する印象は急激に悪くなり、ヘイトスピーチと呼ばれる行為に走る日本人が出てきて大きな社会問題にもなりました。一時は韓流ブームに湧いた日本人が急に嫌韓に傾いたのは韓国側に非があるとは思いますが、韓国だけでなく日本においても近現代史が正しく教えられていないことが問題の根源にあります。

1910年の日韓併合から1945年の敗戦の間、朝鮮人は日本人の一員でありました。しかし日本が敗戦するやいなや、朝鮮人は自らを「戦勝国民」であると主張し、朝鮮人が日本において徒党を組んで暴れ回って凶悪な犯罪が多発しました。そんな過去があったせいか、日本人の中には朝鮮人に対して強い悪感情を持っている人が多くいます。一方、朝鮮人からすると、日本に併合されていた過去（日本は朝鮮を侵略して植民地にしたわけではありません）を不名誉で恥ずべきことと感じて、日本に対しては悔しさのあまり日本を悪者に仕立てたい心理が働くのでしょうか。私もそのような感情については理解できないこともないです。

日本と韓国は隣国同士ではありますが、文化や習慣は全く異なりますし、そんな二つの国が一緒になってしまったがために戦後において大きな負債となって両国間に大きな溝を作っています。これを打破するには、事実は事実として正しく認めて互いの認識を一致させる努力を続けていくより他ありません。戦前においては、朝鮮の政治家をはじめとするエリート層は両国の関係を正しく認識していたのでしょうか。しかし、戦後になってからはそういったエリート層においても正しい歴史を教えてこられなかったがために事実誤認をしてしまって、日本に対して頓珍漢な批判をしたり、約束を平気で反故にするようなことが頻発しています。我々日本人は韓国に対して事実を伝えるとともに、日本の国内でも正しい歴史教育をしなければなりません。

去年はNHKの大河ドラマ『西郷どん』の年でした。征韓論の中心的人物とされている西郷隆盛の主張は、板垣退助らの主張する即時の朝鮮出兵ではなく、開国を勧める韓使節として自らが朝鮮に赴くという「遣韓論」と呼ば

れるものでした。それはともかく、韓国と歴史の事実を共有する努力が大切なことだと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>